

## 「住吉の語り部となりたい」 シリーズ第20回

料亭つたも主人・深田正雄

2012年11月24日

### 栄ミナミのオアシス・矢場公園

今月3-4日の週末、矢場公園では約50年ぶりの屋外映画がシネマキャラバンのお洒落な上映会として開催、寒さにもかかわらず初日は1500名、2日目は3000名の粋な若者でにぎわいました。実は、この公園での映画会はおよそ50年振り、伊勢湾台風前には昼は「紙芝居」や屋台・仮設市場、そして、夜には町内会主催の屋外映画があり、私もそろばん塾（東海算盤）の帰りにアイスクャンディを舐めながら友達と遊んだ記憶があります。

戦後の戦災復興計画の一環で丸焼けになった栄の真ん中に夜間高校「中央高校」と昼の「前津中学分校」を併設、南側に区画整理で戦前の白林寺の墓地部分を公園としたのが矢場公園の発祥です。

その後、定時制高校が新栄に移転、子供の数の減少で前津中学分校はなくなり、中郵便局、中区役所の工事期間中の仮設事務所を経て、平成7年にナディアパーク開業、矢場公園も地下のエンゼルパーク駐車場とともに整備されました。しかしながら、公園はホームレスが住みつき、一部、ゲートボール場として町内の老人会が使用するなど、矢場町の公園愛護会の有志が草花の手入れや清掃する程度で十分に住民生活に活用されていませんでした。平成11年には当時、学生だった水野孝一君が「よさこいソーラン祭り」名古屋版を矢場公園で開催したいので、地元の調整を依頼されました。当時は変な若者たちが踊り狂い騒音でうるさいなど、近隣からのクレーム対応に苦慮いたしました。当時は会場も少なく「にっぽんど真ん中祭り」のスタート中心となり、飛び入り大歓迎の一般参加も多く現在でも矢場会場は飛び入り自由な踊り企画や「ちびっこ大会」が継続しております。

「どまつり」はゲインの藤井英明社長など地元の支援をえて、「財団法人にっぽんど真ん中祭り文化財団」（理事長・岡田邦彦さん）となり、毎年8月末の週末には参加者2万人以上、観客動員200万人を超える名古屋の一大イベントとなりました。地元の私たちに矢場公園の楽しい活用を知らせてくれた学生たちに感謝しております。

その後、万博開催もあり白川公園・若宮大通りなどとともにホームレス退去活動が一段落して矢場公園もビルの谷間の緑の憩いの場となってまいりました。

そして、平成16年にはオーダー紳士服店「マスヤ」の増田国勝・雪子夫妻から寄贈された、彫刻家故富永直樹氏（文化勲章授章者）による「夢の女神」像が「多くの若者に夢に向かってチャレンジして欲しい」という願いを込めて制作設置されました。

以来、毎年3月には市内の小学6年生を対象に「わたしの夢」をテーマに作文コンクール

の表彰式が行われています。今年も3月3日に258点の応募から、選定した14名が「夢ひろば矢場」で町の人々の祝福を受けながら楯などを受賞しました。

そして、平成18年5月の第一回栄ミナミ音楽祭の大成功を契機に、栄ミナミ地域活性化協議会が中心となり市民交流のユニークなイベントが毎シーズンに開催されるようになりました。

ところで、戦前の矢場公園敷地であった白林寺についてご紹介しなくてはなりません。

寛永2年(1625年)建立・三万五千石の尾張藩犬山城主成瀬家の臨済宗妙心寺派の菩提寺、第5世の檀溪徹和尚は山崎川ほとりに住み、文人墨客が足を運んだ「檀溪」の地名としたといわれています。

昭和20年3月12日の戦災で焼失しましたが、奇跡的に山門と桜、楠3本が残り、最近まで山門にかかる見事な桜花は街の名所として安らぎを与えておりました。

そして、現在も寺の南側の木戸をあけると、50坪ほどの畑があり住職様ご家族が手作りのナス・トマト・胡瓜など野菜を栽培されていることは近所でもあまり知られていません。

白林寺さんのHPより：“わたし懺悔します” <http://homepage2.nifty.com/hakurinji/>

あなたは、過去に犯した行為に悶々としていませんか？

いつまでもうしろめたい心が残っていませんか？

あなたは最近、日常生活の中で自分自身の良心に恥じる行為をしませんでしたか？

心あたりのある方は、今ここで正直に自己反省し、罪を告白懺悔してください。

写真：「夢の女神」像



シネマキャラバン光景

